

●タイ難民キャンプでの生活状況

- ☆ 国連の管理下と言うこともあって、内戦時代のような無差別に命を奪われる心配がないことの安堵感に満ちた生活。
- ☆ 手作りの粗末な掘っ立て小屋。ビニールシートなどで屋根を覆うが、雨季には雨漏りがひどい。
- ☆ 狭い空間に総勢 20 名ほどが雑魚寝しているが希望に満ちあふれ、第三国への渡航日を待つ表情は皆明るい。
- ☆ 数万人の人が共同で利用する汲み取り式のトイレの衛生状態がとてもひどかったです。
- ☆ 配給される水が大変貴重なため、毎日がカラスの行水でした。

●タイ難民キャンプで受けた支援

- ☆ 配給は主に「水・お米・缶詰」でした。
その他の生活必需品は(キャンプ内のアメリカ NGO で働くロスおじさんのお給料と)海外の親族からの送金で賄う。

●タイ難民キャンプで受けた学習プログラムなど

- ☆ 居候の立場であり、おまけに女の子の私には「炊事・洗濯・配給の列並び」が日々の主な仕事でした。そのため、何かの学習プログラムを受けた経験(記憶)はありません。

●日本に来てから受けた支援

- ☆ 難民事業本部大和定住促進センターで4カ月間の定住支援プログラムの後市立小学校・夜間中学校・県立通信制高校を卒業。
- ☆ センターを出る際に給付されるお金(生活支度金=10 万円?)がとても有りがたかったです。
- ☆ 私はこれで「布団・テレビ・カーペット・カーテン」などを購入しました。

●日本の支援に対する意見、提言

- ☆ 未知の外国語である日本語をわずか3~4ヶ月の取得期間だけではとても足りませんでした。
私の場合、小学校 4 年生に編入してから 6 年生に上がった頃ようやく授業の内容の一部を把握できるようになりました。ですから日本語の取得期間は1~2 年が妥当だと思います。
- ☆ 特に母国での義務教育を終えていない年齢に対しての進学問題にきちんと配慮(手配)していただきたいです。
なぜなら長い目でみれば将来、「二国間の平和の橋渡しの役割を担う」大きな期待が持てる年齢なのでです。
- ☆ なお仕事の面では「住み込み」と言うシステムは一見、「至れり尽くせり」のように感じられるかもしれませんが、しかし(一部の)外国人の立場からすると、「束縛」と言う概念があります。
なぜなら、その与えられた仕事が順応できなくなった時やスランプに陥った時、会社に対する負い目で余計なストレスになり兼ねないからです。(私自身、それで過食症の病にかかりました。)
- ☆ 以上の私個人の経験からのご提案として、最初の住まいはやはり「公共住宅、もしくは行政、または国が保証人となってくださる住居」が最も有効である、とご提案したい。
- ☆ すなわち、「衣・医・住・語・職(良い15色)」を提案します。

●日本で苦勞したことなど

- ☆ 居場所「我が家」を確保できるまで数え切れないほど住まいを転々としていたので大変でした。
- ☆ おまけに「東南アジア女性」に対する偏見に何度か遭遇したため、やり場のない怒りを感じたこともありました。
- ☆ 「一人の人間として」対等に扱ってくれる日本人に出会った時が、最高に幸せを感じる瞬間です。
- ☆ 基礎教育を受けさせていただいたおかげで、通信制高校への進学や本の執筆などの機会にも与えられ、感謝感激です。
- ☆ なお今、私自身がもっとも望むのは「世界中の人々が、生まれ故郷で当たり前のように安心して暮らせる時代が訪れますように！」ということです。
- ☆ つまり、世界のどこかに戦争が起きている限り、難民は必ず発生します。
- ☆ どうか皆さまのお力で、「世界中が平和で満ち溢れますように」導いてください。